



発行日：令和6年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第15回川部会まとめの会を開催しました！

第15回川部会まとめの会では、令和5年度の活動をふりかえるとともに、次年度の活動計画・目標について話し合いました。また、「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」等について話し合いました。



日時：令和6年1月22日（月）13:00～15:40

会議場所：西三河総合庁舎 402 会議室

参加者：19名（内オンライン参加4名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 今年度の実績・ふりかえり

設定した3つのテーマに関する今年度の活動状況について報告されました。また、矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より「矢作川感謝祭参観レポート」について報告されました。主な報告事項を以下に記します。

◆テーマ別の活動目標に対する活動計画について（テーマ①河道、②流域、③交流・共有）

・ テーマ別の活動目標への活動計画を策定していくため、第63回川部会WGにて出た意見を基に、今後の活動計画や方針、課題等について意見交換を行った。

◆昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介について（テーマ①河道に関する課題）

・ 愛知工業大学土木工学科の卒業研究から、矢作川の生物に関する研究内容を5つ紹介いただき意見交換を行った。

◆地域部会合同でのバスツアーについて

・ 9月に矢作川流域の団体や場所を巡るバスツアーが行われ、川部会では、阿摺水力発電、アユ生態調査、アユのための再生事業、鵜の首地区水位低下対策、家下川での取り組みについて現場見学とディスカッションを行った。

◆矢作川感謝祭参観レポートについて

・ 9月に矢作川中流の本川河畔で行われた「2023矢作川感謝祭」の状況について、野田賢司氏より報告された。

2. 次年度に向けた活動計画・目標

設定した3つのテーマに関する次年度の活動計画・目標について報告されました。また、幸田町の清水淳氏より「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」について報告されました。主な報告事項を以下に記します。

◆次年度に向けた活動計画・目標について（以下、提案した事務局案）

① 河道に関する課題（本川・支川）

・ 越戸ダムや小渡町で実施されている土砂実験状況について、出水期前後にFW（現地視察）を行い、事務所からの説明と意見交換を行う（中・下流の地形・洲にどのような影響を与えているか等）。

② 流域に関する課題

・ 流域治水事業箇所を事例に取り上げ、その区間のFWを行い、多視点（防災・減災、水利用、生態系、娯楽等）から流域に関する意見交換を行う。

③ 交流・共有に関する課題

・ 生態系ネットワーク協議会や流域の農業団体など、外部団体に参加してもらい交流を深めるための仕組みづくりについて議論する。

◆「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」について

・ 愛知県河川課の進める「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」のうち、菱池遊水地の上部利用について清水淳氏より報告された。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の実績・ふりかえり

- ・流域治水というと、河川に流入するまでに何がやられているのかという点。都市や山地や農村という枠組で実施したほうがよい取り組みについて整理しておくほうがよいと思う。(鷲見)
- ▶ 事務局としては、流域の自治体の取り組みについて情報を提供していくことになると思う。(蔭山)
- ▶ 市町村や現場レベルの具体的な取り組みを集計して、どれくらいの効果があるのかを共有するとよい。(鷲見)
- ・矢作川流域圏というが、「圏」が付いている意味について教えてほしい。(清水)
- ▶ 流域圏というのは、水を利用したりしている範囲。経済や人の動きなどを含めるともっと広い範囲になってくる。それも含めて、流域圏の懇談会として議論していると思う。(鷲見)
- ▶ 流域圏懇談会が設立された時に、水を使っている人たちの地域も含めて議論するということにした。(内田)
- ▶ 単なる水系でつながっている範囲ではなく、水を利用している、水の恩恵を受けている範囲と考えている。(野田)
- ・「流域治水」というのを頭にもって来ると、「治水」がメインとなり、何か違うという気がする。(光岡)
- ▶ 流域治水では、環境や水利用など流域住民の営みを含めた形で治水をやっていくことを意味している。(蔭山)
- ▶ 活動目標にある「流域治水」という枕詞は、テーマ②の2つめの頭に持ってくるほうがよいと思う。(鷲見)

●「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」について

- ・R5 年 1/31 の川部会では、菱池遊水地を湿地や水辺にすればということ議論していた。その議論とこの太陽光発電というのは全く違う。住民意見がひろえていないと思う。(清水)
- ・1970 年頃は淡水系のシギ類をたくさん見ることができた。幸田町に淡水系のシギ類が多かったのは、かつて菱池と言う池・湿地があったから。今は、幸田町に限らず干拓地の湿地に太陽光発電施設等が設置され、水鳥が激減している。(高橋)
- ・今、菱池に行くと、工事をやっているところを除いて全面にヨシが生育している。放っておけば湿地になる。我々は自然に寄り添う道も探るべきと思う。(清水)
- ▶ 水が溜まる場所に太陽光パネルを設置していくという考え方はおかしいと思う。(高橋)
- ・菱池の上部利用について愛知県河川課・西三河総合庁舎の担当・幸田町に話をした。現段階では事業内容の最終調整しているため対応はできないとのことであった。(蔭山)
- ・矢作川カーボンニュートラルプロジェクトについては、流域圏懇談会で情報共有できていないと思う。(野田)
- ▶ 本プロジェクトについて、安城市にも情報は下りてきている。情報元は愛知県建設局河川課。(榊原)
- ▶ 2023 年 9 月に「矢作川カーボンニュートラル推進協議会」が開催されている。大きな枠組みの中でプロジェクトが動いているのは間違いないと思う。(内田)
- ▶ R5 年 1/31 の川部会の会議での協議は完全に遅れていたということ。すでに上の方でいろんな動きがあって、大枠での合意がなされていたということかと思う。菱池遊水地の件は一時保留とする。(内田)

●次年度に向けた活動計画・目標

- ・国交省は河川の部分だけの管轄となるが、流域圏懇談会は山から海までを含む議論をしている。川部会は、流域の人たちに、矢作川の恵みや水の大切さ知ってもらうことを一番に考えていかないといけないことかと思う。(高橋)
- ▶ 矢作川に関係している団体、一般市民など矢作川の問題をあまり知らない人たちに対して、矢作川の問題を知ってもらうことが、流域圏懇談会が担っている役割と思う。(内田)
- ・矢作ダムの運用を工夫して、今よりも水力発電をもっとたくさん使おうという提案が流域委員会から出ている。やはり、きちんと情報が出されて、議論し、提言していくことが重要と思う。(内田)
- ・新しいエネルギーの作り方とかを矢作川で開発できれば良いと思う。そういうのも川部会の役割と思う。(高橋)
- ・土砂を流すという問題で、遊水地や霞堤なども取り入れながらダムを減らすという提案もあると思う。(清水)
- ▶ 各ダムの堆砂量や総合土砂管理の資料を勉強しながら、そのようなテーマで議論することはよいと思う。(内田)
- ▶ 川として土砂を流すという機能を止めているのがダム。川部会で議論して提案していただけたらと思う。(高橋)
- ▶ 今ある生活もダムから恩恵を受けている。また堤防・河道の河川整備も周辺地域の治水安全度を向上させていることも事実。ただし、河川整備の結果が今の環境に影響しているという事実も認識しながら議論していきたいと思う。(蔭山)
- ・流域の都市や市町村、河川に関係する団体等関係者について恩恵を受ける側も含めて川への役割、関わり方、課題を整理すると良い。そうすると、今後の川部会で議論すべき課題、その課題と一緒に議論すべき関係者が明確になるはずである。(溝口)
- ▶ 関係する団体の水に関する課題、期待することなどを持ち寄って、情報を認識・共有できる場を作っていかなければいけないと感じている。(蔭山)
- ・現地視察の候補として菱池を提案する。菱池の状況は現地に行くほうがわかりやすいと思う。(清水)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

